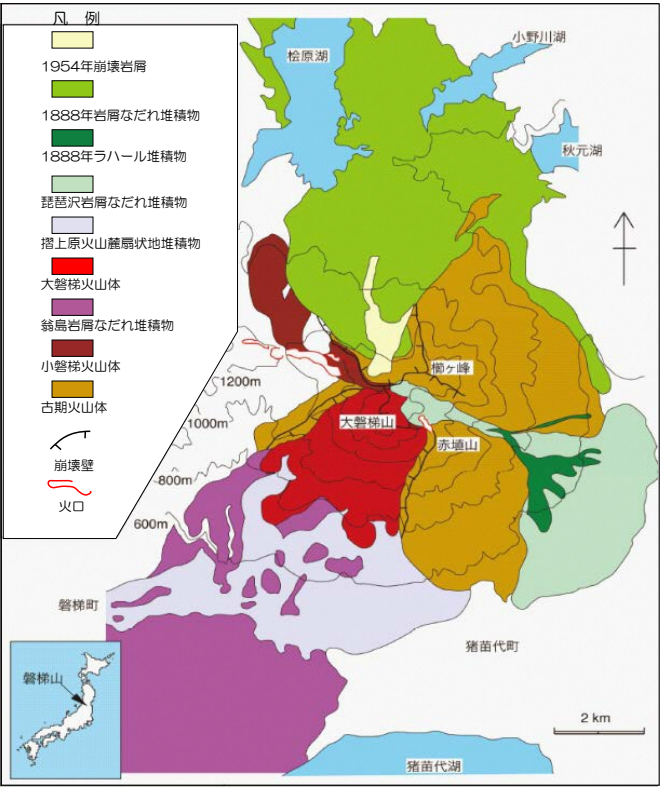


磐梯山の過去の火山活動

磐梯山は、数10万年前から今まで活動を繰り返してきました。噴火で溶岩流や火砕流などが発生して山が成長するとともに、何度も山体崩壊を繰り返してきました。山頂には櫛ヶ峰、赤埴山、大磐梯、小磐梯などが形成され、1888年噴火では小磐梯が北側に大崩壊しました。



磐梯山火山地質図（山元・須藤，1996を和訳）

磐梯山最近1万年間の火山活動

最近の調査結果から、磐梯山では過去1万年間に少なくとも8回の水蒸気噴火、1回のマグマ噴火、3回の山体崩壊が発生したことがわかっています。

1888年の噴火以来、噴火は発生していません。

磐梯山最近1万年間の火山活動史と発生現象

年代	噴火形態	現象種類						
		噴石	降灰	火砕流	火砕サージ	溶岩流	泥流	山体崩壊
1888年	水蒸気噴火	●	●		●		●	● 岩屑なだれ
806年	水蒸気噴火	●	●					
2500～2700年前	-							● (山体崩壊) 琵琶沢岩屑なだれ堆積物
2500～2700年前	水蒸気噴火	●	●				●	
2500～5400年前	水蒸気噴火	●	●					
5400年より古い	-							● (山体崩壊) 小水沢岩屑なだれ堆積物
5800年前	水蒸気噴火	●	●					
6600年前	水蒸気噴火	●	●					
7000年前	水蒸気噴火	●	●					
8300年前	水蒸気噴火	●	●					
9500年前	マグマ噴火 (フルカノ式噴火)	●	●					

千葉・木村(2001), 山元・須藤(1996), Yamamoto et al(1999), 吉田(2012)をもとに作成

磐梯山の地形と噴火の痕跡



1888年の噴火の概要

◆噴火の概要

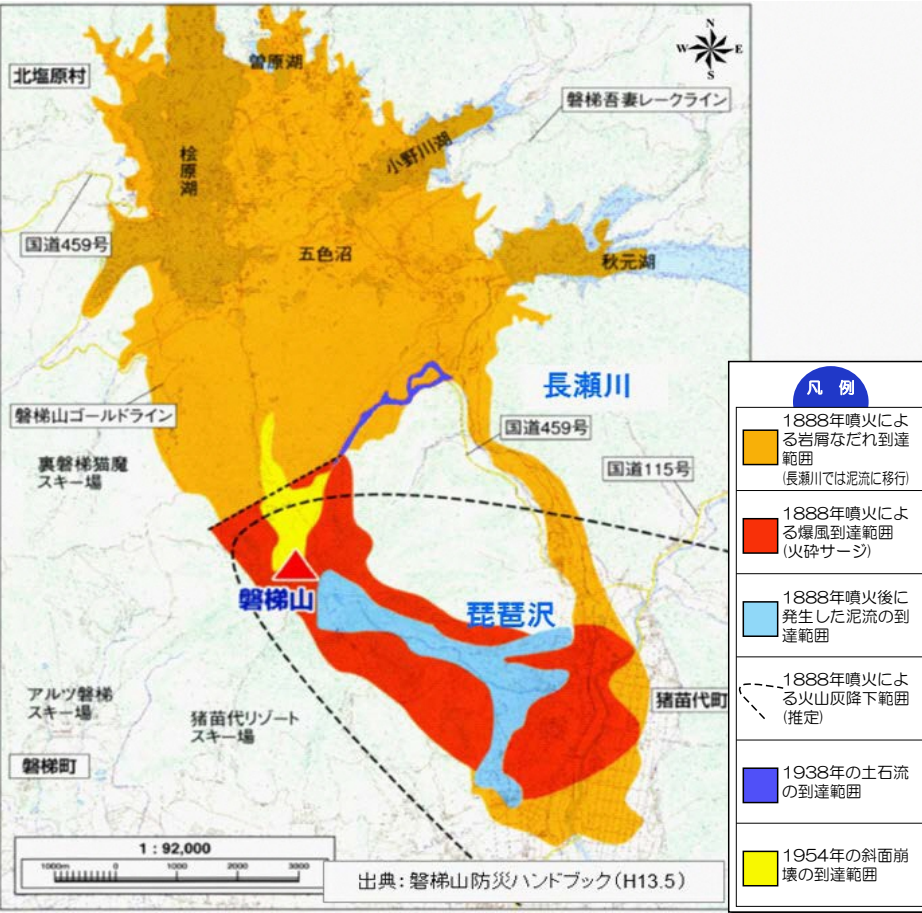
1888年(明治21年)7月15日の朝7時45分に小磐梯山山頂部の破裂から噴火が始まりました。高度1500mに達する黒煙を上げ、15～20回の爆発を繰り返した後、山体が崩れ、北麓へ流れ下りました。また、爆風(火砕サージ)や泥流が琵琶沢を流れ下り、南東側にも被害をもたらしました。降灰は東側に広がり、太平洋岸にまで達しました。噴火は短時間で終わり、同日の夕方には静穏な状態に戻りました。この噴火により北麓の集落(5村11集落)が埋没し、死者477名、負傷者28名という被害が出ました。

北麓に堆積した土砂は、その後の豪雨や融雪時の出水で、長瀬川に流出し河床が上昇しました。そのため、長瀬川では噴火後25年間にわたって洪水が頻発しました。

この噴火は世界的に有名となり、水蒸気噴火で発生する山体崩壊に対して「磐梯型」という名称が付けられています。

◆噴火の痕跡

小磐梯山が北側に崩れたため、当時北麓を流れていた細野川、小野川をはじめとする多くの川を大量の土砂や岩塊がせき止めました。これによって、五色沼湖沼群や桧原湖、秋元湖など大小さまざまな300余りの湖や「流れ山」と呼ばれる特殊な地形が北麓に作られました。



1888年噴火およびそれ以降の土砂移動実績図